

## Ⅱ ふだんの心構えと非常時の行動

洪水など非常時の備えは、家の周りの安全性やご近所とのコミュニケーション、地域のお年寄りの様子、避難場所までの安全な避難経路の確認など、ふだんの地域実態の把握が肝心です。地域における事前の取り組みが、非常時の確かな判断や行動に結びつきます。

役場や消防署などの関係機関は災害や避難に関する情報を提供しますので、それらの情報に接するよう注意しましょう。

### 「普段の心がけ①」 一人暮らしのお年寄りなどに気配りを

自分の家族や住まいだけでなく



く、地域全体にも目を向けましょう。特に、一人暮らしのお年寄りや持病のある人たちには、普段からの気配りが必要です。

### 「普段の心がけ②」 安全な避難経路の確保

洪水時に避難する場所を確認しておきましょう。避難場所までの経路は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるか確認しておきましょう。

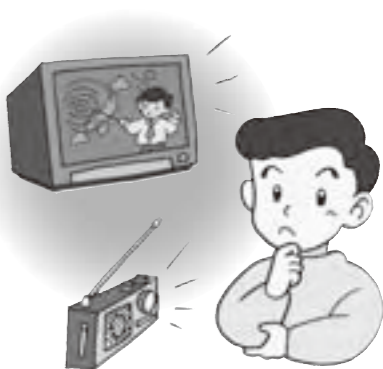


### 「避難時の心がけ①」

#### 正確な情報収集と自主的避難

テレビ・ラジオ等で最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水

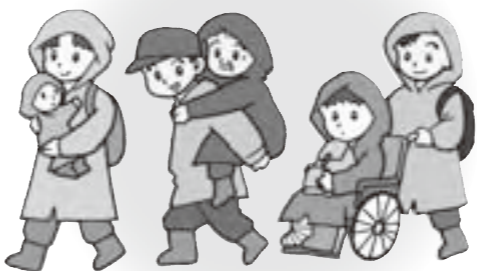
の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



### 「避難時の心がけ②」

#### お年寄りなどの避難に協力を

お年寄りや子供、病気の人は、早めの避難が必要です。近所のお年寄りなどの避難に協力しましょう。



### 「避難に関する情報提供」 避難勧告がなくても自主的な避難を

危機が迫った時は、役場や消防団から避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。

役場から出される避難勧告などの災害情報は、図に示す流れで周知されます。避難の指示がない場合でも、雨の降り方や浸水の状況に注意し、危機を感じた



ら自主的に避難しましょう。早めの対応が、身を守ることに繋がります。

### 非常時の持ち出し品リスト

万二に備えて、ご家庭では次のようなものを備え、定期的なチェックをおきましょう。

- 懐中電灯
- ラジオ
- 飲料水 (ペットボトル)
- 非常食
- タオル
- 貴重品
- 救急セット
- 下着類

## Ⅲ 洪水の記録と記憶の教訓に学ぶ

尻別川本流と喜茂別川など支流の多い本町は、豊かな自然環境と水資源に恵まれていると同時に、開拓以来洪水に悩まされ続けた歴史を負っています。

大正期から昭和10年代までは、豪雨により、河川の氾濫にともなわず、羊蹄山の山津波もたびたび起こっていました。しかし、羊蹄山の治山事業が進むに伴い、昭和20年代以降は、河川の氾濫が災害の中心となりました。特に、昭和24年の大水害は開村以来の大規模な被害となり【※7】、その後もほぼ毎年のように水害が発生し、昭和34年には、昭和24年の災害以上の被害をもたらしています。

その後、36年、37年【※8】と大きな水害が記録され、昭和56年には本町史上最悪の水害を経験したのです。それ以降、大きな水害は記録されていませんが、30年ほど前の昭和56年の水害は、地域の若い世代の記憶にも焼きついている【※9】と言えます。このような災害の歴史から、私たちは何を学

【※9】昭和56年の水害のようす(『新喜茂別町史』より)



ぶべきでしょうか。

役場総務課企画係の酒井英子係長から、ハザードマップに託した想いを聞きました。

「昭和56年の水害は、私が高校生の時だったので、鮮明に覚えています。末広町にあった自宅の床上まで浸水して、家族みんなで家具を2階に上げたことを、今でも思い出します。

今回のハザードマップは、国や北海道の支援もあつて作成できたのですが、川の多いまちに住む私たちが水害で大きな被害にあわないように、という強い気持ちで進

【※7】昭和23年の市街地大火の翌年に起きたこの大水害で、2名の死者を生じている。

【※8】昭和37年の水害では、水防団に交じって喜茂別高校水防団400余名の活躍があり、喜茂別橋流出を防ぐことができた。

めた事業です。町民の皆さんのアンケート結果を見ても、災害を未然に防ぐために隣近所同士で助け合おうという気持ちがあるかれます。このハザードマップには、災害時に安全に避難するための方法や参考情報が掲載されています。災害を防ぐために行政はもちろん全力を尽くしますが、地域の皆さんが助け合う「地域力」こそが、いざと言うときに最も頼りになると思っています。みんなで助け合うための情報源として、ハザードマップを活用してください。」